

第6学年1組 道徳科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 主題名及び教材名

主題名「きまりの意義を考えて」

C12【規則の尊重】法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。

教材名「星野君の二るい打」(東京書籍)

2 主題設定の理由

内容項目の解釈
<p>「規則の尊重」の規則とは、行為や事務手続きなどがそれに基づいて行われるように定められた事柄、きまりのこと、尊重とは尊いものとして重んじることである。人間が集まって社会が形成されると「私」と「私」の利益がぶつかり合って集団のまとまりがなくなり、結局一人一人の願いが実現できないことがある。「法やきまり」はこの集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために人間の知恵が生み出したものである。社会の法やきまりのもつ意義について考えることを通して、法やきまりが、個人や集団が安全かつ安心して生活できるようにするためにあることを理解する必要がある。そして、よりよい人間関係を形成する上では、自分の思いのままに行動するのではなく集団や社会のために自らが果たすべき義務を考え、法やきまりを進んで守り従うという遵法の精神を持つところまで高めていく必要がある。</p> <p>C12「規則の尊重」については、中学年で「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」について学習してきた。これを受けて本主題では、法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすことについて学習していく。このことは、中学校での「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」の学習へと発展していく。</p>

児童の実態	教材の分析
<p>本学級の子どもたちは、きまりを大切に守ろうとすることができる。しかし、「きまりだから守らなければならない」という思いが強く自分の意思で守ろうとするわけではない。そのため、思いのまま行動し、きまりを破ってしまうこともある。</p> <p>そこで、日常生活において、権利や義務という観点から、自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重したりすることができるこの期に本主題を取り上げる。そして、法やきまりを進んで守ろうとする態度を育てたい。</p> <p>このことは、規則の尊重についての価値を感得させるとともに、自己の生き方を見つめる子どもを育てる上からも意義深い。</p>	<p>本教材「星野君の二るい打」は、野球チームに所属する主人公の星野君が、試合のとき、監督からバントの指示が出たにも関わらず、自分で判断してヒットを打つ話である。星野君はヒットを打つ自信があったため打撃に出た。このヒットで星野君のチームは勝利し選手権大会への出場が決まったが、翌日監督は星野君を控えのメンバーにすることを伝える。きまりを破ってしまった星野君の姿や星野君を控えのメンバーにした監督の思いから、身近な集団生活を送る上においてのきまりの意義について考え、集団の維持発展のためにきまりを進んで守ることが大切であるという規則の尊重についての価値をとらえさせるのに適した教材である。</p>

3 本時のねらい

<p>集団を維持し、発展していくためにきまりがあるという意義を考えると、きまりを進んで守ることができることが分かり、自分の意思で進んできまりを守り義務を果たそうとする態度を育てる。</p>
--

4 本時学習の工夫点

【つかむ段階】	【見出す段階】	【見つめる段階】
<p>事前アンケートの結果をもとに、きまりは守らなければならないと思っているが破ってしまうこともあるという課題をもたせ、本時のめあてをつかませる。</p>	<p>「広げる問い」で、チームの規則を守れなかった主人公の行動を判断的に考えさせた後、「深める問い①」で、きまりを守ることの意義についてせまり、「深める問い②」で、きまりを守らなかった場合の集団に与える影響について考えさせ、規則の尊重についての価値理解を深めさせる。</p>	<p>集団の維持発展のために規則を守ることの大切さについて自分との関わりで考えさせ、これまでの自分を振り返らせ、これからの自分の展望をもたせる。</p>

5 計画

事前 (課外)	道徳科 (本時)	事後 (課外)
<p>アンケートにより、学校や学校以外でのきまりに関する経験について想起させる。</p>	<p>教材「星野君の二るい打」を通して、規則の尊重について学習させる。</p>	<p>日常生活において、規則を尊重できたことを紹介し合わせる。</p>

6 展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	<p>1 事前のアンケートの結果をもとに、これまでの経験を想起し、学習のめあてについて話し合う。</p> <p>〈きまりとは〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・守らなければならない。 ・みんな守っているから守るものである。 </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下を走ってしまった。 ・登校班で2列になって歩いた。 </div> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>きまりを守る自分について考えよう。</p> </div>	<p>○ 問題意識をもたせるために、事前アンケートをもとに、きまりに関する経験を想起させ、価値の方向性をつかませる。</p> <p>○ 本時の学習のめあてをつかませるために、規則を守ることが難しいということをとらえさせる。</p>
見出す	<p>2 教材「星野君の二るい打」をもとに、規則の尊重についての価値理解を深める。</p> <p>(1) 教材を読み、場面の状況を把握し、監督からバントの指示が出た時の星野君の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監督の指示には従わなければならない。 ・でも、今日はまだヒットを打っていないから打ちたい。 ・次はなんだか打てそうな気がするのに。 <p>(2) 監督の指示を無視して、ヒットを打った星野君の行動について話し合い、自分の考えを広げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>監督の指示通りのバントではなく、打撃に出た星野君の行動に賛成ですか、反対ですか。 【広げる問い】</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打てると思ったからいいのではないか。 ・実際に選手権大会に出場できるから。 ・バントで負けていたかもしれない。 ・活躍したかったと思う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームのためにきまりは守らないといけない。 ・監督の指示は聞かなければならない。 ・自分勝手はいけない。 </div> </div> <p>(3) 星野君をチームのメンバーから外した監督の思いを考え、規則の尊重についての価値理解を深める。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>星野君を控えのメンバーにすることで、監督はみんなに何を伝えたかったのでしょうか。 【深める問い①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星野君だけでなく、チームのみんなにもきまりを守ることの大切さを考えてほしい。 ・きまりは守らなければならないものであると分かってほしい。 ・きまりを守ることで、チームが一つとなって成長できるようになることに気付いてほしい。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>きまりを守らない人がいるチームはこの後どのようなになっていくでしょうか。 【深める問い②】</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>きまりが何のためにあるかを考えて、自分から進んで守る。</p> </div>	<p>○ 星野君の気持ちに共感させるために、今日の試合の状況をもとに、打ちたい気持ちを強くもっていることを確認する。</p> <p>【広げる問い】</p> <p>○ 自分の見方、考え方を広げさせるために、星野君の行為に賛成か反対かを判断的に問い、吹き出しに書かせ、2つの立場で話し合わせる。</p> <p>【深める問い①】</p> <p>○ 規則の尊重についての価値にせまるために、星野君を控えの選手にした監督の思いを分析的に問う。</p> <p>【深める問い②】</p> <p>○ 規則の尊重についての価値をとらえさせるために、きまりを守らない集団はどのようなになっていくか仮定的に問い、キーワードを黒板にまとめる。</p>
見つめる	<p>3 本時で明らかにした規則の尊重についての価値をもとに、自己の生き方についての考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のためにもみんなのためにもきまりを守っていきたい。 ・廊下の通り方や教室での過ごし方を見直していきたい。 ・きまりを守ることで学校全体がよくなると思う。 	<p>○ 自分との関わりで考えを深め、実践意欲をもたせるために、本時学習をする前の自分を振り返らせ、価値理解したことをもとにこれからの自分について考えさせた後、規則の尊重に関わる説話を言う。</p>

C12【規則の尊重】「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」
 教材名「星野君の二るい打」（東京書籍）

中になければならない。

取っつきあつた
 ・ルール
 ・野球技

めあて
 きまりを守る自分について考える。

星野君の二るい打

バントの指示
 活やくした
 ビットを打ちたい

二るい打！選手権大会出場！

勝つたから
 打ったから
 活やくした気持ちも分かる
 バントで負けていたかも。

賛成

反対

チームのきまりは破るはいけない
 かんじの指示にしたがうべき
 チームがこわれる
 自分勝手

試合のときはチームのことを
 第一に考えて作戦どおりに
 アップする。

何のために作戦を考える
 きまりを守る大切
 チームのことを考えきまりを守る
 みだれなく

主な発問

○つかむ

きまりとは、どんなものですか。

きまりを守れなかったことはありますか。

「きまりが大切だと分かっているけど、守れないことも
 ありますね。」

きまりを守る自分について考えよう。

○見出す

監督からバントの指示が出たとき、星野君はどう
 思ったのでしょうか。

【広げる問い】

監督の指示通りのバントではなく、打撃に出た
 星野君の行動に賛成ですか、反対ですか。

自分の考えと理由を吹き出しに書かせる。その後、
 ペア交流をさせる。

【深める問い①】

星野君を控えるメンバーにすることで、監督は
 みんなに何を伝えたかったのでしょうか。

ペア交流をさせる。

【深める問い②】

きまりを守らない人がいるチームはこの後どの
 ようになっていくのでしょうか。

きまりが何のためにあるかを考えて、自分から
 進んで守る。

○見つめる

今日学んだことや、これから頑張りたいこと
 について振り返りましょう。

○成果と課題・改善策 (◎成果, ●課題, →改善策)

【つかむ段階】

◎事前アンケートをとり、導入段階できまりに対して「守らなければならない」という意識をもっていることや、きまりを破ってしまった自己の経験を想起させることができた。

●一人一人の課題に応じた問題意識をもたせることが不十分であった。

→きまりを守っていると答えた子どもの中にも「渋々守っている」「進んで守っている」など意識に個人差があることに気付くことができるようにする。

【見出す段階】

〈広げる問い〉

◎「賛成」と「反対」の立場を取って意見交流することで、考えを広げさせることができた。

●反対(きまりは守るべき)派が多く、賛成派の意見を十分に広げることができなかった。

→意図的に指名したり教師が賛成派についたりすることで、賛成派の意見を引き出すことができるようにする。

→学級の実態を踏まえ、主人公の行動を判断的にとらえさせる発問ではなく、主人公の弱さに共感させる発問をすることで、多様な考えを広げることができるようにする。

〈深める問い〉

◎「深める問い①」で監督の思いを考えることで、きまりが何のためにあるのかを考える子どもの姿を見ることができた。

●「深める問い②」で仮定的な問いをしたが、状況を十分に理解させることができず、価値についての理解が不十分であった。

→星野君が選んだ行動が他者にどのような影響を与えるか考えさせ、分類、整理する。

→「深める問い①」と「深める問い②」を発問した後に、「なぜきまりはあるのでしょうか。」などの切り返しの発問をすることで、きまりの意義をもう一度考えることができるようにする。

〈表現活動〉

◎「賛成」と「反対」の2つの立場で吹き出しを書かせたことで、主人公の気持ちに共感させ、考えを広げることにつながった。

【見つめる段階】

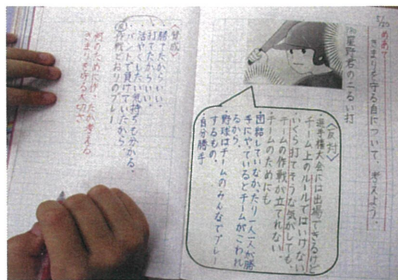
◎事前アンケートで自分を振り返ることで、学習をする前の自分を比較し、実践意欲を高めることができた。

●自己を見つめる際に、自分の経験を掘り起こすことが不十分であった。

→子どもたちがきまりを守っている様子の写真を板書に残すことで、きまりを守った経験を想起できるようにする。

○表現活動、対話の様子

【考えをノートに書く】



【ペア交流】

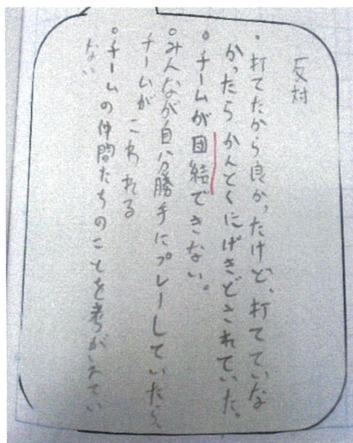


【全体交流】



○子どものノートや発言

【広げる】



【深める】



チームのことを考えて、きまりを守るべきだと伝えたかったのではないかな。

【価値理解～見つめる】

